

第13回日本小児循環器病学会教育セミナーAdvanced Course

令和4年2月26日～27日
WEB開催

小児期の治療選択のその先

～その患者さんの20年後・40年後をイメージして診療していますか～

- ①外科医が考える「その先」を見据えた治療
- ②女性医学・妊娠・出産
- ③内科医が考える「その先」を見据えた治療
- ④思春期・移行期の先天性心疾患の諸問題
- ⑤先天性心疾患の緩和医療

今年度の日本小児循環器学会教育セミナーAdvanced Course は、患者さんが「今いる場所」から空間・時間軸共に大きく広げて、少し未来から「改めて患者さんの今を見る」という視点でテーマを選びました。講師の先生方として、小児科・心臓外科だけではなく、成人循環器内科・産婦人科・精神科・看護師など各方面の先生方にご講義をお願いしております。ひとつのテーマを掘り下げるといよりも、多方面から話題を提供して頂き、その中から少しでも明日からの診療のお役に立てることがあれば嬉しく思います。

また今回のセミナーでは、あらかじめ、講師の先生方への質問を受け付けています。事前質問の方法については別途メールにてご案内予定です。web では Q&A など書き込む時間が追いつかないこともありますが、逆に、気軽にご質問頂けるというメリットもあります。ぜひ、セミナーの前からの積極的なご参加をお願いいたします。

セッションは大きく4つに分かれます。講義はもちろんですが、心臓外科・循環器内科・産婦人科の各セッションでは【debate time】を設けて、講義ではなく「ちょっと気になるあの話」をご登壇いただく先生方にぎくばらんに語っていただくことにしました。

①心臓外科セッション：先天性心疾患の歴史は外科治療の歴史といっても過言ではありません。手術に携わっている小児心臓外科医がどのようなことを考え感じながら手術をしているか、遠隔期に問題となりそうな4つの疾患群についてご講義いただきます。

【debate time】は症例検討にさせていただきました。ご講義いただきました先生方にコメントーターとしてもご参加していただき、フォンタン到達困難例、ハイリスクフォンタン例についてご意見をいただきます。

②**女性医学・妊娠・出産**：小児科医が思春期を迎えた女性患者さんに対応する機会も増えていますが、実際にどういうことに気をつけて診療していけばよいのでしょうか。そこで、小児科医が普段勉強する機会が少ない産婦人科分野の常識的な問題、ホルモン異常、産科救急、そして近年問題となっている不妊治療について、各分野の専門家の先生方からご講義いただきます。

【debate time】は若い先生方からの質問に、識者の先生からお答え頂きます。あらかじめ質問を募集いたしますので、参加申し込みの際などに、是非お気軽に質問を投げかけてください。事前質問の方法については別途メールにてご案内予定です。

③**循環器内科セッション**：遠隔期に気になるいくつかのテーマを、成人先天性心疾患診療に携わる循環器内科医・小児科の先生からお話しいたします。

【debate time】にはフォンタン型手術後に使用されることが多いものの、施設によって考え方が異なっている、気になる薬剤(抗凝固・肺血管拡張剤)について、ご登壇いただく色々な施設の先生方からご意見を頂戴いたします。

④⑤**思春期・移行期・緩和医療**：今回、是非取り上げたかったテーマですが、実際に学ぶにしても雲を掴むような部分も多く、まだよく分からないことばかりです。しかし、目の前の患者さんが今困っていること・今後困るかもしれないことであり、我々はそれに対処する必要があります。簡単に答えは出ない話ではありますが、ぜひ皆で共有して、一度立ち止まって考えたいと思います。

これらのメインセッションに加えて、今回は、ランチョンセミナーの代わりに**トピックスコーナー**を設けました。当学会の理事・三浦大先生を中心に行われている薬剤の治験促進活動、さらにTVでも時々お見かけしたあの感染症内科の先生から2年間のCOVID-19の総括と今後についてお話し頂きます。おやつ・お昼休憩しながら、聴いて頂きたいと思います。

【プログラム】

*1日目 2/26 土曜日 13:00~19:00

2日目 2/27 日曜日 9:00~15:00 (目安)

*オンデマンド配信は講義部分のみとなります。

*タイトルは仮タイトルのものも含まれます。

【1日目：2/26 土曜日 13：00～19：00】

① 外科医が考える「その先」を見据えた治療 13：00～15：40

(総合司会：福岡市立こども病院心臓血管外科・中野俊秀先生)

- (1) フォンタン型手術を歴史から見直す (25)
(兵庫県立こども病院心臓血管外科・松久弘典先生)
- (2) VSD、PS を伴う修正大血管転位に対する外科治療を遠隔成績から再検討する (25)
(国立循環器病研究センター小児心臓外科・帆足孝也先生)
- (3) TOF の再手術の変遷と再々介入を含めた治療戦略 (25)
(大阪大学大学院医学系研究科・上野高義先生)
- (4) 大動脈弁疾患に対する長期治療戦略 (25)
(静岡県立こども病院心臓血管外科・猪飼秋夫先生)

<debate time> 症例検討 (30 x 2)

- (1) フォンタン到達困難例～この症例の外科的治療のゴールは～
(プレゼンター：兵庫県立こども病院心臓血管外科・松島峻介先生)
- (2) ハイリスクフォンタン到達を検討する～適応は何処まで広げられるのか～
(プレゼンター：岡山大学心臓血管外科・小谷恭弘先生)

<トピックス①> 15：50～16：20

- ・日本小児循環器学会の治験促進活動プロジェクト
～長期に服用する薬剤だからこそ、治験によるエビデンスが必要～
(東京都立小児総合医療センター循環器科・三浦大先生)
(座長：兵庫県立こども病院循環器内科・城戸佐知子)

② 女性医学・妊娠・出産 16：30～19：00

(総合司会：国立循環器病センター産婦人科・神谷千津子先生)

- (1) ホルモンと婦人科疾患(卵巣出血含む) (榊原記念病院産婦人科・堀内縁先生) (25)
- (2) 正常妊娠、妊娠合併症と産科救急(国立循環器病研究センター産婦人科・吉松淳先生) (25)
- (3) 皆様に知っていただきたい不妊治療の現状 (IVF 大阪クリニック・福田愛作先生) (25)
- (4) WHO 分類 II～III の妊娠 (国立循環器病研究センター産婦人科・神谷千津子先生) (25)

<debate time> 事前質問に対するエキスパートからの回答

(国立循環器病研究センター産婦人科・吉松淳先生/神谷千津子先生)

- (1) 先天性心疾患患者の不妊治療の是非(30)
- (2) WHO 分類 II～III の妊娠は本当に大丈夫？ 勧める？ 勧めない？ (30)

【2日目：2/27日曜日 9：00～15：00】

③ 内科医が考える「その先」を見据えた治療 9：00～11：25

(総合司会：秋田大学小児科・豊野学朋先生)

- (1) 実例で見る先天性心疾患の超長期経過：予想外かもしれないけど知っておきたい病態 (25)
(岡山大学循環器内科・杜徳尚先生)
- (2) 抗心不全治療 up to date (利尿剤・抗心不全薬、他) (25)
(神戸大学/兵庫県立丹波医療センター内科・松本賢亮先生)
- (3) 遠隔期のカテーテル治療 (適応と効果、必要性・困難例・介入のタイミングなど) (25)
(兵庫県立こども病院循環器内科・田中敏克先生)

<debate time> 以前から気になっていたあのこと

- (1) フォンタン型手術後の抗凝固について(35)
- (2) フォンタン型手術後の肺血管拡張剤について(35)
(debater：アイウエ順) 大阪母子医療総合センター小児循環器科・青木寿明先生
国立循環器病研究センター小児循環器内科・大内秀雄先生
東京女子医科大学循環器小児科・竹内大二先生
埼玉医科大学総合医療センター小児科・増谷聡先生
九州大学小児科・山村健一郎先生

<トピックス②> 11：35～12：05

- (1) 新型コロナウイルス感染症と CHD～2年間の総括～
(兵庫県立こども病院感染症内科・笠井正志先生)
(座長：兵庫県立こども病院循環器内科・三木康暢)

④ 思春期・移行期の先天性心疾患の諸問題 (④⑤)12：20～15：15)

(司会：東京情報大学看護学部・水野芳子先生)

- (1) 意外と知られていない「思春期」：体の発達と心の発達、ドロップアウトに至る心理
(東洋大学文学部：榎本淳子先生) (25)
- (2) 発達障害・知的障害の患者の成人期 (おたクリニック・太田真弓先生) (25)
- (3) 就学・就労等の社会問題 (愛媛大学小児科・檜垣高史先生) (25)

⑤ 先天性心疾患の緩和医療

(司会：横浜市立大学看護学科・落合亮太先生)

- (1) そもそも死生学とは (25) (中澤誠先生)
- (2) 緩和医療のパラダイムシフト ～緩和ケアの対象は Serious Illness へ～ (25)
(兵庫県立姫路循環器病センター緩和ケア内科・坂下明大先生) (25)

(3)先天性心疾患の緩和医療～看護師から～ (25)

(横浜市立大学医学部看護学科・秋山直美さん)

(4)先天性心疾患の遠隔期緩和医療～内科医から～ (25)

(神戸大学循環器内科・福田旭伸先生)

CLOSING 15：15～15：20

・ご挨拶